



東京高輪病院
地域医療連絡室

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号
tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

「顔の見える医療連携」をめざして

今年度の本病院の重点課題は、地域医療連携の充実でした。それに沿って、多くの企画を進めてまいりました。その課題がどれほど、地域医療に携わっている方々に届いたか、をアンケート結果などデータも含めて検証していければ、と考えています。

せんぼ東京高輪病院 副院長
地域医療連絡室長

梶浦 直章



Contents

- ・「顔の見える医療連携」をめざして
副院長・地域医療連絡室長 梶浦直章
- ・診療科のご紹介
皮膚科
外来での診療を中心に
必要に応じ短期入院治療も
行っています
- ・泌尿器科
ひとりひとりの患者さんに
合った治療を心がけています
- ・婦人科
EBMに基づいた患者さん本位の
治療を心がけています
- ・アンケートの調査結果

8回目を重ねた地域医療懇話会

師走に入り、諸先生におかれましては、ますますご多忙のことと存じます。今年もせんぼ東京高輪病院に関しましては多大なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。先月5日に行われました地域医療懇話会では、港区医師会長厚治秀行先生はじめ多数の先生方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

8回目の開催となりました今年は、例年になく多くの先生方のご参加をいただき、演者の呼吸器科・新井医長、健康管理センター・貝瀬センター長も熱の入った講演であったと感じております。

引き続き行われた懇親会では久しぶりにお顔を合わせる先生、また当院新任の医師においては各先生と初めての顔合わせなど、日ごろのご支援ご協力に感謝しながら楽しく、そして有意義なひとときを過ごすことができました。

顔の見える医療連携をめざした さまざまな取り組み

また先月17日に行われた肝がん撲滅運動の教育講演会におきましては、診療を終えてお疲れのところ、多くの先生はじめ皆さまに駆けつけていただきました。戸田院長、前川内科部長、小山外科部長による三題で約2時間にわたる講演でしたが、お帰りの際には「非常によかった」「たいへん勉強になった」など、多くのお褒めの言葉をいただきました。あらためてお礼を申し上げます。

今後もいろいろな企画により、多くの先生と交流の場を持ち「顔の見える医療連携」を続けていく所存でございます。

より具体的な発信をテーマに

平成17年度当院では地域医療の強化を最重点課題として取り組んでおります。地域医療連絡室の独立による医療連携サービスの強化、広報誌「せんぼだより うえーぶ」の創刊、地区別地域医療懇話会の開催など実施してまいりました。ご納得いただけるような医療連携サービスが先生方に提供できてますでしょうか。

10月に実施しました地域医療連携に関するアンケートにつきましては、ご多忙中にもかかわらず、多くの先生にご協力いただくことができました。これも、ひとえに当院によせられた期待の重さであると感じており、たいへんありがたく感謝申し上げます。

アンケート調査の結果につきましては本号の裏表紙に特集として掲載しておりますのでご報告に代えさせていただきますと存じます。アンケートとともに寄せられましたたくさんのご意見ご要望に関しましては、紙面の都合上掲載はできませんでしたが、アンケートの結果とともに貴重なご教示として今後の経営方針に役立てていく所存でございます。

来年度は診療報酬の改定も予定され医療を取り巻く環境はいちだんと厳しくなり、各先生にお願いすることも多くなることと存じます。今後ともお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

来年も皆さまにとってよき年になりますようお祈り申し上げます。



地域医療懇話会院長挨拶



地域医療懇話会風景



地域医療懇話会



肝がん教育講演会

診療科の紹介 皮膚科

外来での診療を中心に 必要に応じ短期入院治療も行っています



皮膚科 部長 たけうち よしお 竹内 吉男

専門分野と力を入れていきたい治療

アトピー性皮膚炎、皮膚アレルギー性疾患。皮膚腫瘍の手術治療。炭酸ガスレーザー（スーパーパルス）によるほくろ、いわゆるいぼ（老人性いぼ、線維腫、アクロコルドンなど）、老人性しみの治療。褥そうの入院および外来通院治療。他に巻き爪に超弾性ワイヤー法、陥入爪に点滴チューブによるガター法など侵襲の少ない治療法も試みています。爪白癬の治療には従来の6ヵ月間連続の内服治療のほかに、昨年からは毎月1週間の内服を3回繰り返すパルス療法も登場しました。



炭酸ガスレーザー

外来はなるべく医師二人で診療するようにし、問題のある症例は極力その日のうちに相談して治療方針を決めます。基本的に午前は毎日外来勤務で予約診療と予約外診療、午後は予約診療のみとし、外来手術、時間のかかる処置、専門外来、病棟往診や褥そう回診（水、金）などにあてるようにしています。火木の午前は1人診療のため待ち時間は少し長くなるかと思えます。

また土曜日は近隣の病院の休診が多く、患者さんも休みの方が多いため、働き世代の若い患者さんが特に多く受診します。この曜日は平日に比べると、受診者に時間的余裕があるようで、すべて予約なしの受付順で診療を行って

います。少し大きめの手術は金曜日に予定し、仕事への影響が少なくすむように週末の短期入院なども考慮しております。専門外来としてレーザー外来（木曜午後：自由診療で予約のみ）を今年から開設し件数が増えています。来年は月曜の午後にも枠を増やして、できるだけ早い時期に治療が受けられるよう対応する予定であります。

地域医療への取り組みとお願い

レーザー治療、皮膚腫瘍の切除の依頼などをお受けいたします。帯状疱疹、蜂か織炎など急性感染症の入院治療もお受けいたします。

なお病診連携が機能するにつれ、初診の紹介患者様を時間予約で診察することができるようになり、地域の先生方のご要望にそえるようになってまいりました。今後よろしくご厚意申し上げます。



おぎわら もりひさ 荻原 護久 皮膚科

診療科の紹介 泌尿器科

ひとりひとりの患者さんに合った きめ細かな治療を心がけています



泌尿器科 部長 まつぎさき あきら 松崎 章

泌尿器科では、尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）系、男性性器（前立腺、精巣、陰茎）系および副腎や後腹膜領域などの泌尿器全般を対象として検査治療を行っています。

疾患としては、尿路性器感染症、尿路結石症、尿路性器癌、前立腺肥大症、男性不妊症・勃起不全などの男性機能障害をはじめ、種々の排尿障害、副腎腫瘍、腎後性腎不全など、多岐にわたっています。

現在泌尿器科は、2名の常勤医師で診療に当たっています。外

来業務は、月曜から土曜の午前中は通常外来診察を行い、月曜・水曜・木曜の午後は、特殊検査外来（予約制）と、専門外来（水曜：ED外来、木曜ストマ外来）を行っています。手術は、火曜・金曜の午前午後に、また、体外衝撃波結石破砕術（ESWL）は、月曜・水曜の午後に施行しています。当科では、悪性腫瘍の早期発見治療（特に前立腺癌）内視鏡手術、尿路結石治療に力を入れております。

EBMに基づいた患者さん本位の 治療を心がけています



婦人科 部長 かわい きよみ 河合 清文

当院の婦人科は河合と名倉医師の2名で診療に当たっております。

少子化のため、特に港区では分娩数の減少が著しく、当院でも平成5年度から産科を閉鎖し婦人科を中心に診療しております。分娩は取り扱っておりませんが、婦人科疾患は全般に検査、治療を行っています。以下、代表的婦人科疾患における当科での診療概要について説明させていただきたいと思っております。

機能的疾患

・**内分泌疾患** 当院の婦人科の特徴のひとつとして月経不順、機能性子宮出血等の婦人科内分泌疾患の占める割合が多いことがあげられます。これは近隣にオフィスビルが多く、そこで働く女性たちが、生活上、仕事上のストレス等により生理不順等に陥る例がかなりあるためと思われまます。このような女性たちに対しては、ただ単にホルモン剤で月経周期を整えるだけではなく、年齢および内分泌状態に基づいた理論的治療を心がけております。

・**更年期障害** 更年期障害に対しては、ホルモン補充療法（HRT）はもとより、漢方療法もまた深く採用しています。また、ご自分の患者さんにHRTを希望されている近隣の内科等の先生方に対しては、投薬は各先生方のところでしていただき、定期的な婦人科チェックのみ当院で行うというような連携もしております。興味ある先生はご連絡いただければ喜んでご協力したいと思いますので、よろしくお願ひします。

器質的疾患

・**良性疾患** 婦人科の良性腫瘍の代表的なものとしては、子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣嚢腫があげられます。これらのうち、子宮筋腫、子宮内膜症に関しては、適応および、本人の希望を十分汲み取り、手術療法のみならずホルモン療法による保存的療法にも力を入れております。手術療法に関しては、1998年より内

視鏡下手術を導入し、より浸襲の少ない治療を心がけております。また2002年からは子宮鏡下手術も導入して、現在では、悪性腫瘍を除き婦人科内視鏡手術の多くが可能となっており、短期入院、早期社会復帰に心がけています。

・**悪性疾患** 代表的婦人科悪性腫瘍としては、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌が挙げられます。これらに対しては診断、および広汎性子宮全摘出術、骨盤、膀大動脈リンパ節廓清、化学療法等の集約的治療が可能です。当院には放射線治療の施設がないため、症例の進行度によっては他施設との協力により治療をさせていただいております。

産科診療に関して

当院は平成5年以来分娩の取り扱いは行っておりませんが、妊婦検診は施行しております。

帰省分娩の予定の方は32週くらいまで、都内で分娩の予定の方は20週くらいまでの方を対象に妊婦検診を行っております。

なお、産科病棟のない関係上、妊娠中期以降で入院が必要な方は、近隣の病院をご紹介しています。

微力ではございますが、皆様のお役に立てますよう、今後とも、がんばっていく所存でございます。よろしくお願ひします。



なぐら さとし 名倉 智 婦人科

前立腺癌の早期発見と治療

近年、前立腺癌は高い増加率を示しています。優れた腫瘍マーカーである前立腺特異抗原（PSA）の測定により、症状を有しない早期癌診断が可能となり、積極的に根治療にも取り組んでいます。癌治療に当たっては、患者さんの病期、年齢、合併症などを総合的に検討し、手術療法・放射線療法・内分泌療法の中からいちばん適切と思われる治療法を相談して決めています。

泌尿器科内視鏡手術と体外衝撃波結石破砕術（ESWL）

現在泌尿器科手術の大半は、内視鏡下で行い、より低侵襲治療を心がけています。表在性膀胱癌、前立腺肥大症などでは、ほぼ全例経尿道的治療で行われ、クリニカルパス導入により在院日数が各々平均6.2日、8.9日と大幅に短縮されています。

尿路結石の治療では、自然排石が不可能と判断された結石に対しては、体外衝撃波結石破砕術（ESWL）治療を積極的に施行しています。当院装備の破砕装置は、強力な破砕力

と優れた透視によりESWL適応範囲が広く、治療効果が高いのが特徴です。治療は点滴鎮痛剤使用の下で行うため、2日間の入院を原則としています。入院当日にESWLを施行し、翌日退院となります。すべての結石の破砕が一回で終了するわけではなく、大きな結石の場合複数回の破砕を要することがあります。当院での平均の破砕回数は1.3回です。一部の破砕困難例や下部尿管結石には、尿管鏡を用いた経尿道的尿管結石破砕術（TUL）を併用することで、ほぼ全例の結石に対応可能です。

また、排尿障害（頻尿、排尿困難、尿失禁、尿閉等の下部尿路症状）の原因は、単一ではなく心機能や睡眠障害などの種々の要因による病状ととらえ、細かな対応を心がけています。

泌尿器科では、患者さんひとりひとりの立場に立って、最良の医療を提供できるよう努力してまいります。泌尿器科に関連した症状の患者さんがおられましたら、ぜひ当科にご紹介いただければ幸いです。



いしはら まさなり 石原 順就 泌尿器科医長



結石破砕装置 ドイツ・ドルニエ社製

アンケート調査の報告

10月に実施しました、当院の地域医療連携に関するアンケート調査につきましては、ご多忙中の折り、多数の先生方、医療機関のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

調査結果につきましては、下記のとおりご報告させていただきます。各先生、医療機関よりいただきました貴重なご意見・ご要望につきましては、最重要課題として当院の経営方針に取り

り入れるほか、地域医療連携の強化策として取り組んでいく所存でございます。

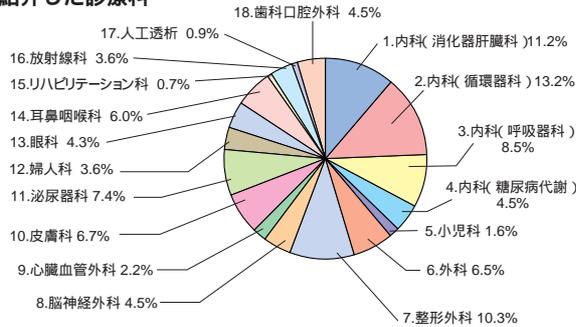
今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

| | 1. 回答数 | 2. 未回答 | 配布枚数 | 回答率(%) |
|-----|--------|--------|------|--------|
| 回収率 | 187 | 783 | 970 | 19.3% |

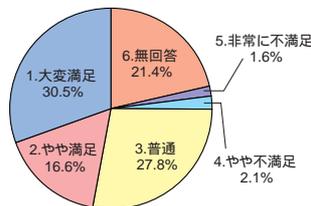
当院への患者紹介実績



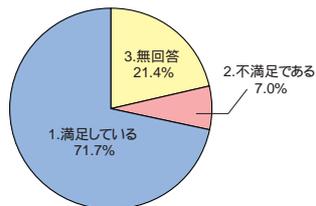
患者紹介した診療科



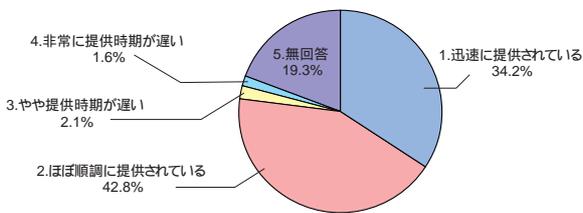
地域医療連絡室の対応



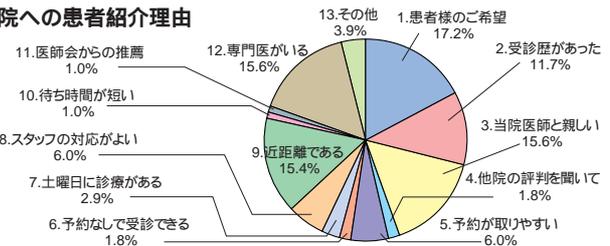
診療報告書(お返事)の内容



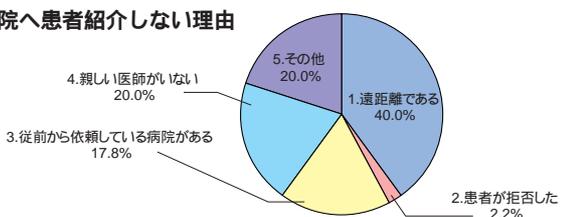
診療報告書(お返事)の提出時期



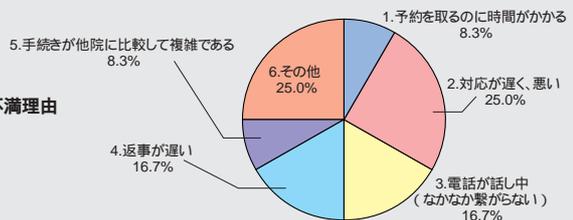
当院への患者紹介理由



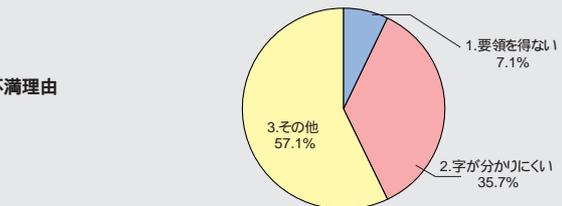
当院へ患者紹介しない理由



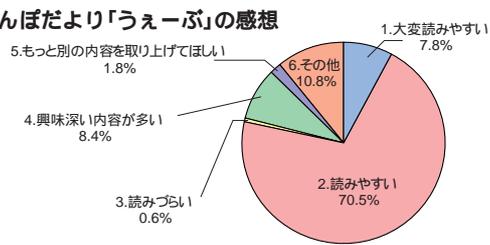
不満理由



不満理由



せんぽだより「うえーぶ」の感想



港区三田地区学術講演会開催 11月29日、芝パークホテルにおいて三田地区の世話人である石井勝先生が座長となり、開催されました。35名の先生に出席いただき、当院出川副院長による演題「虚血性心疾患の新しい治療」の講演が行われました。

編集後記

早いもので平成17年も残すところわずかとなりました。本年もたいへんお世話になりました。11月に開催した地域医療懇話会、肝がん撲滅運動「教育講演会」は多数の先生方にご出席いただき、盛会に終えることができました。重ねてお礼申し上げます。

先生も走る「師走」です。寒さ厳しき折り、十分にご自愛いただき、よいお年をお迎えくださるようお祈り申し上げます。来年もどうぞよろしく願いいたします。

「訂正とおわび」

第4号の新任医師紹介、楠本医師のプロフィールで「平成17年昭和大学院卒」は「平成15年昭和大学卒」の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。